



株式会社共栄商事

2023 年度 環境経営レポート

(対象期間 2023 年3月1日～ 2024 年2月29日)



作成日： 2024年6月30日

目 次

項 目	ページ
あいさつ	3
環境経営方針	3
組織の概要	4
事業・製品の紹介	4
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	5
主な環境負荷の実績	6
環境経営目標及びその実績	6
環境経営計画の取組結果とその評価	7
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果, 並びに違反, 訴訟等の有無	9
緊急事態対応訓練	9
代表者による全体の評価と見直し・指示	9
これまでの環境活動の紹介	10



環境経営方針

＜環境経営理念＞

キヨーエイ・グループは、地域社会とともにスーパーマーケットとして、お客様に安全でおいしい商品の提供を通じて健康で豊かな食生活に貢献するとともに、地球環境保全のための循環型社会の実現のために、地球温暖化問題への取り組みや地域の環境活動に自主的・積極的に取り組み、経営における課題とチャンスを定期的に見直し、環境負荷の改善を継続的に改善いたします。

＜環境保全への行動指針＞

- 1． 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
- 2． 創意工夫による省エネルギーにより二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- 3． 廃棄ロスをなくす等廃棄物の発生抑制につとめ、食品リサイクル率の向上に努めます。
- 4． 適正な利用により水使用量の削減に努めます。
- 5． 洗浄剤や殺菌剤など適正管理に努めます。
- 6． 安心で安全な商品を効率よくタイムリーにお客様にお届けします。
- 7． 地域や関係団体の環境活動に積極的に参加します。



制定日： 2017年7月31日

改定日： 2021年4月30日

代表取締役社長 小林 宏三

□組織の概要

(1) 名称及び代表者名

株式会社共栄商事
代表取締役社長 小林 宏三

(2) 所在地

本部 岡山県高梁市中原町1084番地の1
ポルカ食品館 岡山県高梁市中原町1084番地の1
キョーエイ賀陽店 岡山県加賀郡吉備中央町上竹711
キョーエイ加茂川店 岡山県加賀郡吉備中央町下加茂19-1
プラム食品館 岡山県真庭市落合垂水628番地 ※2024年度に拡大

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 執行役員管理本部長 萩原 正弘 TEL: 0866-22-0550
担当者 総務部経理課長 森末 大介 TEL: 0866-22-0808

(4) 事業内容

食品スーパー（飲食物品・日用雑貨・酒類・ギフトの販売・買物代行サービス）

(5) 事業の規模

売上高 2,700 百万円

	本	部	ポルカ食品館	キョーエイ賀陽店	キョーエイ加茂川店	プラム食品館	合計
従業員 名	18 名	59 名	9 名	6 名	51 名	143 名	
延べ床面積 m ²	516.60 m ²	2,298.65 m ²	886.68 m ²	935.95 m ²	2,436.34 m ²	7,074.22 m ²	

※2024年度に拡大

(6) 事業年度

3 月 1 日 ～ 2 月 29 日

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名: 株式会社共栄商事
対象事業所: 本部・ポルカ食品館
キョーエイ賀陽店
キョーエイ加茂川店

活動: 食品スーパー（飲食物品・日用雑貨・酒類・ギフトの販売・買物代行サービス）

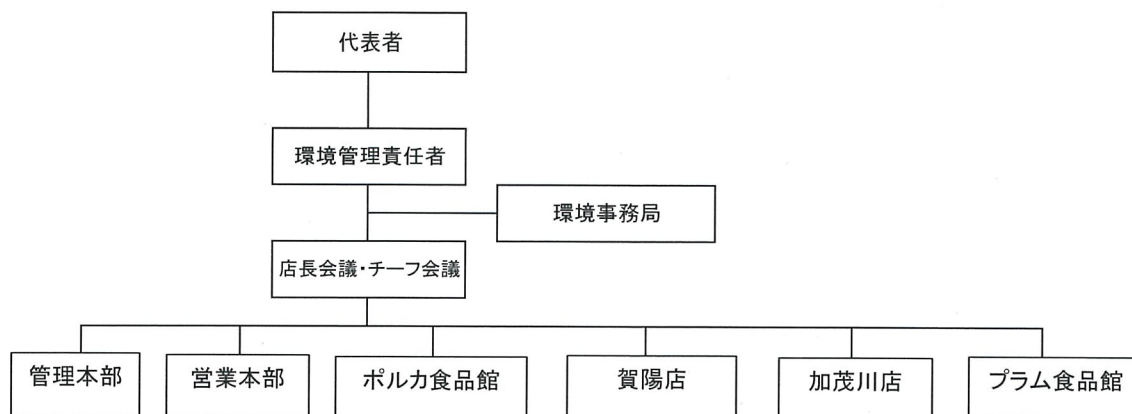
□事業や製品(商品)の紹介

私たち共栄商事は、地元根差した店づくりで、新鮮で安心な食品を提供するスーパーマーケットを展開しています。自慢は、商品の品質と鮮度、そして元気で明るい接客。店舗は私たちの情熱のエキスを詰まっています。今お客様が求めているのは、「健康」と「安心安全」。私たちが店舗展開する高梁を中心としたエリアも高齢化が進んでいます。健康で長生きしたいというお客様からのご要望を受け、新鮮でおいしいものを提供することはもちろん、安心安全な食品をお客様にお届けしています。地域に密着したスーパーだからこそ、地産地消や、生産者の顔が見える商品など、お客様のご要望に素早く対応できるのが強みです。目指すのは、地域のお客様のご要望に、さらに柔軟に対応できるお店。また、家庭に代わって食育の一端が担えるようなお店づくりを目指しています。

地域への恩返しとして社会貢献も取り組んでいます。吉備国際大学女子サッカーチームのスポンサーとなり、地域が元気になるお手伝いをしています。また、生活困窮世帯の子どもに食品を無償提供する活動も始めました。今後も、地域に対して何ができるかと常に考え、活動を広げていきたいと考えています。

社内では社員同士が仲が良く、皆一生懸命仕事に取り組んでいます。このような社風がずっと引き継がれ、大きなエネルギーの源となっています。共栄商事は今、過渡期にあります。肉や魚の知識や技術は、すぐに伝承できるものではありません。だから、若い人にじっくり伝えていきたい。少し変わった形での食育として、食の伝統や技術を若い世代に伝えていきたいと考えています。いいものは残して、新しいことに挑戦する。100年続く企業を上げるために、若い力に期待しています。何事にも興味を持ってトライし、前向きに一緒にがんばる仲間を待っています！

□環境経営組織図及び役割・責任・権限表



※2024年度に拡大

	役割・責任・権限
代表者(社長)	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、店長会議・チーフ会議の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
店長会議・チーフ会議	・環境経営計画の審議 ・環境活動実績の確認・評価
部門長	・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加



チーフ会議実施状況

□主な環境負荷の実績

項 目	単位	2022年	2023年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	935,510	883,602
廃棄物排出量			
一般廃棄物排出量	トン	195,416	188,491
産業廃棄物排出量	トン	0	1,475
食品廃棄物			
発生量		75,087	64,906
発生抑制量		0	0
再生利用量		57,529	45,971
熱回収量		0	0
減量量		0	0
再生利用以外の量		0	0
廃棄物処理量		17,558	18,936
食品再資源化実施率	%	77%	71%
総排水量	m ³	4,542	4,843

※二酸化炭素排出係数 0.636 kg-CO₂/kWh 電力会社の調整後の係数

□環境経営目標及びその実績

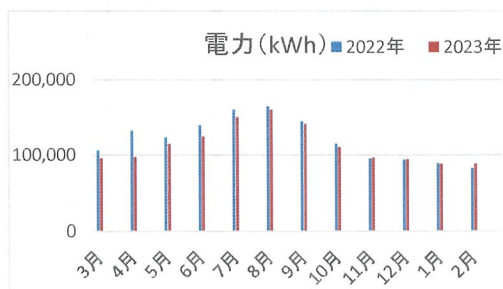
年 度 項 目		基準値	2023年		評価	2024年	2025年
		(基準年)	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	918,582	872,653	866,821	○	1,331,944	1,286,015
	基準年度比	2022年	95%	94%		145%	140%
LPGによる二酸化炭素削減	kg-CO ₂	788	780	848	×	788	780
	基準年度比	2022年	99%	108%		100%	99%
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	16,140	15,333	15,933	×	15,817	31,473
	基準年度比	2022年	95%	99%		98%	195%
全社二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	935,510	888,766	883,602	○	1,348,549	1,318,268
	基準年度比	2022年	95%	94%	○	144%	141%
一般廃棄物の削減	kg	65,971	64,652	68,671	×	63,992	62,672
	基準年度比	2022年	98%	104%		97%	95%
食品廃棄物の再資源化率の向上	%	6%	71%	71%	×	72%	73%
水道水の削減	m ³	4,542	4,315	4,843	×	7,040.10	6,813.00
	基準年度比	2022年	95%	107%		155%	150%
洗浄剤使用量削減	kg	1,315	1,289	1,575	×	1,276	1,249
	基準年度比	2022年	98%	120%		97%	95%
環境に配慮した加工活動	行動目標(次項による)						

□環境経営計画の取組結果とその評価

数値目標: ○達成 ×未達成

活動: ◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取組み計画	達成状況	取組結果とその評価
電力による二酸化炭素削減		
数値目標	○	電気使用量前年比は各店とも削減効果が上がった。基幹店舗の動力関係の電気使用量についても前年比94%と一定の削減はできた。結果、CO ₂ 前年比排出削減目標をクリア。引き続き全店の冷蔵ケースの温度管理の徹底と吹き出し口、吸い込み口の定期的な清掃を実施する体制を再構築し更なる使用量削減を実施する。2024年度はプラム食品館が追加となるため実績を勘案し基準年度比150%、目標は-5%の145%の設定とする。
・空調温度の適正化(冷房25℃ 暖房20℃)	◎	
・不要照明の消灯	◎	
・ノー残業デーの実施	×	
・パソコンの節電対策	○	



次年度の取組内容

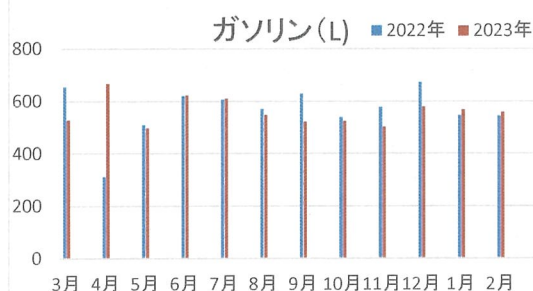
電力料金高騰を受け徹底した節電対策を実施。プラム食品館は太陽光発電設備及び氷蓄熱システム導入によりCO₂排出量削減に大きく寄与。

取組紹介欄



	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
2022年	105,645	132,275	122,930	139,346	159,954	164,401	144,352	114,795	95,419	93,696	88,854	82,644
2023年	95,524	97,437	114,552	124,865	150,476	160,223	141,602	110,390	96,449	94,340	88,613	88,455

自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価
数値目標	×	2022年度は各店配送の外部委託により削減。今年度は前年比削減するも99%と未達となる。プラム食品館の開店に伴う社用車の利用が増加したこと起因。2024年度は前年比-2%の目標を設定。2025年度は戦略により自社配送に変更するためガソリンの使用料は増加。前年比200%、目標は-5%の195%の設定とする。
・アイドリングストップ	○	
・共同配送の実施	○	
・急発進・急ブレーキの厳禁	○	



次年度の取組内容

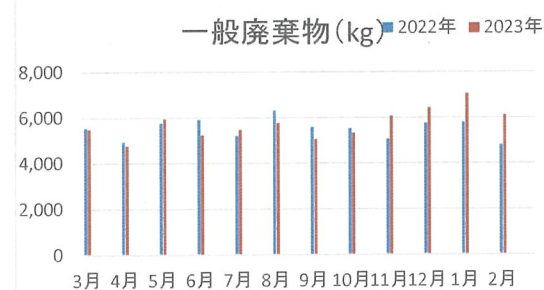
安全、安心の運転で急発進、急加速、急ブレーキの抑制を働きかける。

取組紹介欄



	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
2022年	653	312	508	619	606	569	627	538	577	670	545	542
2022年	45	0	0	45	0	0	45	39	0	0	0	0
2023年	527	666	497	623	611	546	522	524	502	579	568	558
2023年	0	0	0	0	0	0	51	0	0	0	0	79

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価
数値目標	×	コピー用紙の再利用等は徹底出来ているものの、可燃ごみの減少には繋がっておらず削減が進んでいなかった。
・分別の徹底	○	
・シュレッダー廃紙のリサイクル化	○	
・印刷済廃棄紙のコピー紙再利用	○	



次年度の取組内容

一般廃棄ごみに回っている生ごみ等をリサイクルにできるだけ回していく。処理量の増大化を目指す。

取組紹介欄



	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
2022年	5,521	4,919	5,753	5,896	5,181	6,296	5,563	5,509	5,046	5,733	5,770	4,784
2023年	5,479	4,753	5,940	5,232	5,473	5,764	5,053	5,326	6,064	6,434	7,044	6,109

食品廃棄物の再資源化率の向上	達成状況	取組結果とその評価
数値目標	×	従来からの取引業者のリサイクル事業からの撤退に伴い11月以降食品残渣のリサイクル率が大幅に悪化し目標未達となる。目標数値71%は前年に設定した目標と同数値とした。
・原料の賞味期限切れロスの防止	△	2024年6月、新たにリサイクル業者と契約し、現在はリサイクル率は改善している。達成率を上げるには各店のリサイクルの仕組みとポルカ食品館の青果以外の残債の処理を増やす必要がある。
・加工ロスの削減	△	
・店舗での廃棄ロスの削減	△	
・脱水、乾燥による減量	×	
・再資源化先の開拓	○	

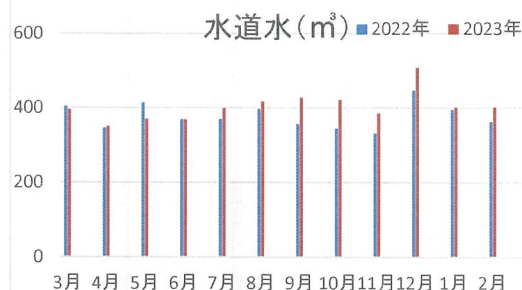
次年度の取組内容

食品残渣の排出量を抑えることが大前提として需要と供給のバランスを営業活動と連携して削減をする。

取組紹介欄



水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価
数値目標	×	基準年度2022年は前年比87%と大幅に削減ができたが、今年度は使用量増加し目標未達となる。効率的に水道水を使用するよう節水意識の徹底に努めていく必要があると思われる。2024年度はプラム食品館が追加となり実績を勘案し基準年度比158%、目標は-3%の155%の設定とする。
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	
・節水弁取り付け	×	



次年度の取組内容

節水活動を継続して削減に努める。

取組紹介欄



	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
2022年	405	347	414	370	370	397	357	345	332	447	395	363
2023年	395	351	370	368	399	417	427	421	385	508	401	401

洗剤使用量削減	達成状況	取組結果とその評価
数値目標	×	コロナウィルス対策のためパワークリーナーキーパーの使用が大幅に増えている。ほかの薬剤も同様に増加傾向にある。目標設定はそのまま適性使用に努め削減を図りたい。
・有害性物質の表示の徹底	○	
・容器の蓋の徹底	○	
・作業ミスによる使用量増加の抑制	○	
・代替商品の検討	△	

次年度の取組内容

コロナウィルス・食中毒対策で使用量が増えているが、適正な使用量を確認して削減に努めていく。

取組紹介欄



環境に配慮した加工活動	達成状況	取組結果とその評価
・下記項目の現状把握と対策の立案	△	生鮮部門の廃棄金額の削減が進んでいる。需要と供給のバランスが取れていると思われるが機械ロスが増えていないか検証をする必要がある。
・歩留まり率向上	○	
・顧客クレーム削減	○	
・作業場の温度管理の徹底	○	

次年度の取組内容

経営課題と直結した取り組みで、各部門の業績とも連動している。地球環境の問題も踏まえ、着実に成果が上がるように目標設定と数値の検証をしっかりとやっていきたい。

取組紹介欄



地域や関係団体の環境活動への参加	達成状況	取組結果とその評価
・店舗付近の草取り・ゴミ拾いへの参加	○	毎月実施している食品館周りの草取り活動に参加を続けている。今後も継続していく。

次年度の取組内容

継続的にポルカハピータウンの周りの美化清掃を継続的に実施します。

取組紹介欄



□主な環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

環境関連法規等	該当する設備・項目	遵守状況
食品リサイクル法	食品廃棄物	遵守
騒音	空気圧縮機、送風機	遵守
振動	空気圧縮機	遵守
水質	煮湯設備、洗浄設備	遵守
浄化	浄化槽	遵守
下水	除害施設	遵守
消防法(危険物)	危険物の保管	遵守
フロン排出抑制法	業務用空調機・冷凍庫・冷蔵庫	遵守
プラスチック資源循環法	ワンウェイプラスチックの使用の合理化	遵守

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
食品リサイクル法の事業者ごとの基準実施率は達成しています。
なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□緊急事態対応訓練

緊急事態の想定：火災の発生	
■実施日：2024年6月21日	■実施場所：ポルカ食品館
■参加者：吉原店長、池田、藤井、萩原等	■実施内容：
	・通報訓練、消火訓練、避難訓練
■評価：避難経路の確認、消火器の使い方等、有意義な訓練が出来た。	手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし
■実施状況の様子	
	

□代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2024年6月30日

【前回の指示への取組結果】	
該当なし	
<情 報> ◇環境方針 環境に対する企業姿勢としても真摯に向き合うことが非常に大事と考えております。SDGsについてもエコアクション21から次の目標として標榜できるように目指してゆきたいと考えています。 ◇環境目標・活動計画の達成状況 今期の結果はリサイクルについては一定の道筋ができたものの基本的なCo2削減については環境目標に対して活動が十分に出来ておらず残念な結果でした。しかしながら企業姿勢として取り組めることは出来る限り早く対応する方向で実施した結果としては及第点ではないかと思えます。しかし、取組はまだまだこれからですので従業員の意識醸成を図ってまいります。 ◇その他 ・利害関係者からの苦情・要請等 ・環境上の問題点等	<見直し・指示> ◇環境方針 環境方針の変更はありません。引き続き地球環境保全のための循環型社会の実現のために、地球温暖化問題への取り組みや地域の環境活動に自主的・積極的に取り組みます。 ◇環境経営目標・環境経営計画 目標、計画についても引き続き変更せず継続してまいります。 ◇実施体制 各店においてもエコアクション21の活動が4年目になります。店長を中心に役割分担を明確にして実施してください。 ◇その他 従業員の活動についての普及理解を更に深めて企業風土になるようにお願いします。
【今回の評価結果と今後の経営視点】	
EA21活動の目的と具体的な取組みについて更なる教育訓練に取り組んで環境活動と本業活動の融和を目指す。	

口これまでの環境活動の紹介



パソコンの節電
(省電力設定、スリープ設定)



空調管理
(冷房25℃、暖房20℃に再設定)



安全運転(慌てず、急がず)
(急発進、急ブレーキ)



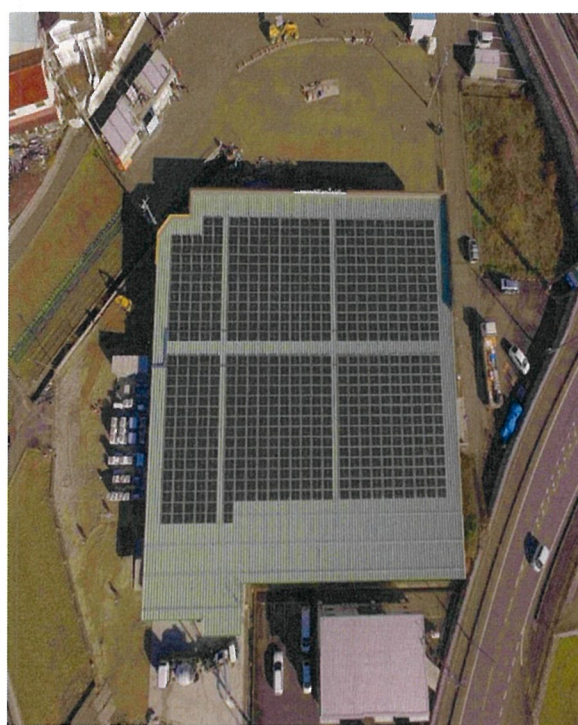
保健所職員による講習会
(EA21の取組・食品衛生普及)



店長によるチーフ会議
(EA21の取組普及)



プラスチック廃棄物であるペットボトルの自主回収
(プラスチック資源循環法対応)2023年3月より



新店プラム食品館屋上の太陽光発電設備
(二酸化炭素排出量35%程度削減)2024年3月より

口編集後記

今回は、事業年度を変更して、4年目の活動期間を行っておりますが、二酸化炭素排出量の削減、食品廃棄ロスの削減、食品残渣のリサイクルについては社員一同意識して取り組んでいる実感はあります。反面、水使用量、洗剤使用量の削減については節約意識が多少欠けていたように思われた。意識・行動が早く全員に身につきますように頑張っていきます。